

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京福祉大学
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で 定 め る 基 準 単 位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・ 通信	4	0	10	14	13	
教育学部	教育学科	夜・ 通信		0	10	14	13	
心理学部	心理学科	夜・ 通信		0	16	20	13	
保育児童学部	保育児童学科	夜・ 通信		0	16	20	13	
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・ 通信	4	0	10	14	13	
教育学部	教育学科	夜・ 通信		0	14	18	13	
心理学部	心理学科	夜・ 通信		0	16	20	13	
保育児童学部	保育児童学科	夜・ 通信		0	14	18	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京福祉大学
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/director.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	国士舘大学名誉教授 モンゴル国立大学客員教授（名誉博士） 日本危機管理学会名誉会長（前会長） 公益財団法人・日本国際フォーラム政策委員	2021. 9. 17 ～ 2023. 3. 31	経営計画の策定 組織運営体制のチェック機能
非常勤	株式会社中村屋 取締役会長	2020. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	経営計画の策定 組織運営体制のチェック機能
非常勤	元神奈川県教育委員会 高等教育課指導主事	2020. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	経営計画の策定 組織運営体制のチェック機能
非常勤	元広島入国管理局長 元東日本入国管理センター所長 元高松入国管理局長 元仙台入国管理局長	2020. 12. 1 ～ 2023. 3. 31	経営計画の策定 組織運営体制のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京福祉大学
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

本学では、シラバス作成過程において、親シラバス制度を導入している。親シラバスとは、シラバスの項目のうち、「授業形態」、「講義概要」、「学習目標」、「成績評価の規準と評定の方法」の4項目を同一科目で共通化した母体のシラバスを意味するシラバスである。この4項目は、異なるキャンパス・教員間であっても共通としている。

授業計画(シラバス)作成過程においては、以下に行われる。

1. 各学期末に、授業担当教員が「担当科目実施報告書」を作成して、科目責任者に提出。科目責任者は「同一科目担当者協議会」を開催して、教育内容の質の均一化、成果の標準化を目的として行い、親シラバスの各項目の確認を行う。春期授業期間後に実施される同一科目担当者協議会では、親シラバス変更の手続きが行われ、次年度シラバスに反映される。

2. 親シラバス変更後、次年度科目担当教員に次年度シラバスの作成依頼が行われ、教員はシラバス作成を行う。

3. 教員から提出されたシラバスは、カリキュラム編成専門部会による点検を行い完成となる。

なお、通信教育課程は、上記の作業後、科目責任者を中心に通信教育課程のシラバスを確認し、変更された内容を反映させた上で通信教育教務専門部会による点検を行い、完成となる。

通学課程における授業計画(シラバス)の作成・公表時期においては以下のとおりである。

入稿依頼(12月中旬)

一次締切(1月中旬)

シラバスチェック期間(2月上旬から2月下旬)

修正締切(3月中旬)

公表(4月上旬)

通信教育課程における授業計画(シラバス)の作成・公表時期においては以下のとおりである。

入稿依頼(2月中旬)

一次締切(3月中旬)

シラバスチェック期間(4月上旬から4月下旬)

修正締切(5月中旬)

公表(6月上旬)

授業計画書の公表方法	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/syllabus.html						
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。							
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>通学課程)</p> <p>シラバスに「成績評価の規準と評定の方法」の項目を設定している。</p> <p>評価は学習目標の実現状況を観点として評価する。同一科目については「何ができたようになったか」、「何を学んだか」、「どのように学んだか」等を評価・評定の観点として、統一し、客観性を重視するものとする。</p> <p>評価の方法は、論文（レポート）、試験、実技、口頭試問、受講態度・参加姿勢等を考慮し、客観的な評定を行うよう配慮し、項目ごとに評価の割合（％）を明示することとする。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>通信教育課程に関する規程第 10 条に「学習指導は、教科書等の教材の配布、学習、質疑応答、レポート作成・添削指導、面接授業（講義・演習・実習）、放送授業、メディアを利用して行う授業、卒業研究及びその他の方法によって行う。」と定めている。</p> <p>また、単位認定については、同規程第 14 条に「単位の認定は、各授業科目の定めるところにより、科目終了試験の合格又はレポート試験及び科目終了試験の合格により与えるものとする。」と定め、履修要項に「レポート・科目終了試験・スクーリング修了試験（オンデマンド授業、放送授業を含む）共通評価基準」を設定し、厳格な評価を行っている。</p>							
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。							
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>学則第 36 条に定め、大学 HP に公表。また履修要項により以下のように記し実施している。</p>							
9. 成績の評価							
判定	合 格				不 合 格		保留
	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点 ～0点	無資格	
評 価	A	B+	B	C	F		I
G P	4	3	2	1	0		
無資格：授業の出席日数不足などで成績評価を受ける資格がないこと。							

GPA制度について

本学ではGPA制度を実施しています。各科目とも5段階（A・B+・B・C・F）で成績評価され、それぞれに対して、4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、1単位当たりの平均、GPA（グレード・ポイント・アベレージ:Grade Point Average）を算出します。単位修得はC評価でも可能ですが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要となります。3セメスター（1年半）連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされます（ただし、突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長などから学生に学習指導・生活指導を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となります）。

※GPA算出方法 $GPA = [(GP \times \text{単位}) + (GP \times \text{単位}) + (GP \times \text{単位}) + \dots] \div \text{全履修単位数}$

※一度F評価（不合格：GP=0）をとった単位は、再履修して合格しても、GPA評価の対象となります。（F評価は、卒業するまで履修単位数に計上されます。）

（通信教育課程）

通信教育課程に関する規程第12条に定め、大学HPに公表。また履修要項により以下のように記し実施している。

判定	合 格				不 合 格
	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点～ 0点
評 価	A	B+	B	C	F
G P	4	3	2	1	0

GPA制度について

単位を修得した各科目の総合評価に対して、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼ばれる制度を適用します。

このGPA制度では、各科目の総合評価（A・B+・B・C・F）に対しそれぞれに、4・3・2・1・0のGP（グレード・ポイント）を付与し、修得した単位あたり（編入学等で認定された単位を除く）のGPの平均（グレード・ポイント・アベレージ）を出します。

毎年度、このポイントを出しますが、2年間連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされます。ただし、突然、退学勧告がなされるわけではなく、学修指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となります。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/images/gpa_ug.pdf
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

「建学の精神」、「大学の使命」、各学科の「教育の目的」に基づき、以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めている。

【全学方針】

東京福祉大学は、その建学の精神・教育理念に基づき、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、以下のように能力と行動力等を身に付け、所定の単位を修得し、GPA2.0以上を満たした学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。

1. 全学共通の教養科目を含む総合教育科目群の履修を通して、
 - ・実生活や実社会で生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や豊かな人間性を身に付ける。
 - ・特に、自己形成に必要な、国際的視野、社会的責任感、他者への思いやり、倫理観、コミュニケーションスキル(文章表現能力、対話能力、異文化の理解力等)、情報処理能力、自己指導能力などの知識・技能・態度を身に付ける。
2. 専攻する学部・学科の特定の学問分野における履修を通して、
 - ・専門的な知識・技能を体系的に理解するとともに、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会貢献できる能力を身に付ける。
 - ・特に、社会貢献に必要な、マネジメント能力、チームワーク、リーダーシップ、プレゼンテーション能力、コンプライアンス(法令遵守)、チャレンジ精神などの資質・能力を身に付ける。
3. 「講義」「演習」「実習」などを通して、専門職者として求められる課題解決能力、キャリアプランニング能力を身に付け、自己実現力を身に付ける。

(通学課程及び通信教育課程共通)

【社会福祉学部 社会福祉学科】

- 社会福祉学科のカリキュラムの履修を通して、
- ・現代社会の福祉ニーズに対応すべく、即戦力たりうる実践力を備えた社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、あるいは社会福祉関連施設等の管理・運営者として社会貢献ができる。
 - ・広く国際的、文化的、社会的視野から、社会福祉専門職としての社会的責務・倫理を理解し、諸種の実践のなかに浸透させることができる。

【教育学部 教育学科】

- 教育学科のカリキュラムの履修を通して、
- ・教育に関する思想、歴史、法律、制度、方法等の基本的な知識を体系的に理解し身に付ける。
 - ・子どもの発達や心理に関する基本的な知識を体系的に理解し身に付ける。
 - ・情報化・グローバル化社会の中で変動する教育現場に対応するため、幅広い視野から物事を判断する力を身に付ける。
 - ・他者との対話を通して、考えを明確にし、思考を発展させることができる。
 - ・教育現場における課題を自ら発見し、解決する力を身に付ける。
 - ・実際の教育現場で活用できるディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを基本とする双方向対話型の教育方法を身に付ける。

【心理学部 心理学科】

心理学科のカリキュラムの履修を通して、

- ・心理学に関する専門的な知識・技能を体系的に習得し、主体的に、専門的学問に取り組む力を身に付ける。
- ・現代社会が抱えるさまざまな問題を発見し、その解決に向けて心理学の観点から科学的にアプローチできる能力を身に付ける。
- ・ヒューマンサービス等、心理の関連分野において、心理学の知識を応用して実践的に活躍できる力を身に付ける。

【保育児童学部 保育児童学科】

保育児童学科のカリキュラムの履修を通して、

- ・保育士、幼稚園教諭、保育教諭等になるための専門的な知識・技能を体系的に身に付ける。
- ・乳幼児保育の専門家として、的確な対象理解力と子どものニーズへの対応力を身に付ける。
- ・子どもを取り巻く現代社会の問題を理解し、的確かつ柔軟な思考力、実践力を備えた多様な保育ニーズに対応できる資質・能力を身に付ける。
- ・園経営、クラス運営などのマネジメント能力を身に付けるとともに、多様な人々とともに、目標に向けて協力する力を身に付ける。

通学課程においては、ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、教授会及び教育研究評議会の議を経て学長が卒業を認定している。

通信教育課程においては、ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、通信教育委員会の議を経て学長が卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京福祉大学
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
財産目録	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html
事業報告書	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/report.html
監事による監査報告(書)	https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/selfassessment.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 社会福祉学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html) (概要) 現代社会のなかで絶え間なく変化する福祉ニーズに対応でき、実践力が備わった即戦力となる社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の福祉人材並びに社会福祉関連施設等の管理・運営者を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html) (概要) 社会福祉学科のカリキュラムの履修を通して、 ・現代社会の福祉ニーズに対応すべく、即戦力たりうる実践力を備えた社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、あるいは社会福祉関連施設等の管理・運営者として社会貢献ができる。 ・広く国際的、文化的、社会的視野から、社会福祉専門職としての社会的責務・倫理を理解し、諸種の実践のなかに浸透させることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html) (概要) 社会福祉学科では、以下の点に留意する。 ・豊かな人間性の育成や基礎学力を身に付けるための科目を充実させ、また国家試験合格、就職試験に生かせるキャリア教育に力を入れたカリキュラムを構成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html) (概要) (大学学部共通) 東京福祉大学は、その建学の精神・教育理念に基づき、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力・行動力が備わった、社会福祉、教育、心理分野の専門職者の養成を目的としている。 そのために、実生活や実社会で生きるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力、学びに向かう力や人間性を身に付けることや本学の各学部・学科で養成する各分野の専門家に必要な専門的な知識・技能を体系的に理解するとともに、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会貢献できる能力を身に付けさせることを重視している。 本学の入学者選抜では、受験時の実力だけでなく入学後の能力の伸長の可能性をも見出すことを目的とし、総合型選抜をはじめ多様な選抜方法を用意し、学習意欲・熱意、人間相手の仕事への適性を持つ方にぜひ入学の機会を提供したいと考え、以下のように本学の入学者受け入れ方針を定めている。 1. 本学の教育理念、教育目標・内容・方法等を理解した上で入学を希望する者 2. 将来、社会福祉関係、保育関係、学校教育関係、心理学を生かした職業を目指し、チャレンジ精神や意欲がある者 3. 自分や他の人を大切にし、「やさしさ」「思いやり」「人間性」にあふれる熱意のある者 4. 東京福祉大学・東京福祉大学短期大学部の実践的・効果的な教育を継続して学び、能力を伸ばしていこうという意欲のある者

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html)</p> <p>(概要)</p> <p>入学後に3つの専攻・コースから希望に合わせてそれぞれのカリキュラムを学ぶ。学校教育専攻では、本学の学生参加型・対話型の授業を通して、その教育方法を身に付け、卒業後、教育現場で「アクティブ・ラーニング」が実践できる教員を養成する。また、国際教育専攻ではグローバル化する社会の中で、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力やグローバルレベルでの健康問題に対処できる国際的知見と視野を備えたグローバルな教育人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html)</p> <p>(概要)</p> <p>教育学科のカリキュラムの履修を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する思想、歴史、法律、制度、方法等の基本的な知識を体系的に理解し身に付ける。 ・子どもの発達や心理に関する基本的な知識を体系的に理解し身に付ける。 ・情報化・グローバル化社会の中で変動する教育現場に対応するため、幅広い視野から物事を判断する力を身に付ける。 ・他者との対話を通して、考えを明確にし、思考を発展させることができる。 ・教育現場における課題を自ら発見し、解決する力を身に付ける。 ・実際の教育現場で活用できるディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを基本とする双方向対話型の教育方法を身に付ける。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html)</p> <p>(概要)</p> <p>教育学科では、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育においては、教養基礎演習をはじめとする総合教育科目で教養を身に付けつつ、教育専門職に必要な基礎知識・求められる資質、能力について学ぶ。 ・キャリア支援教育を初年次から4年次まで段階的に配置し、教員採用試験合格に向けた科目編成を行う。
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html)</p> <p>(概要)</p> <p>(大学学部共通)</p> <p>東京福祉大学は、その建学の精神・教育理念に基づき、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力・行動力が備わった、社会福祉、教育、心理分野の専門職者の養成を目的としている。</p> <p>そのために、実生活や実社会で生きるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力、学びに向かう力や人間性を身に付けることや本学の各学部・学科で養成する各分野の専門家に必要な専門的な知識・技能を体系的に理解するとともに、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会貢献できる能力を身に付けさせることを重視している。</p> <p>本学の入学者選抜では、受験時の実力だけでなく入学後の能力の伸長の可能性をも見出すことを目的とし、総合型選抜をはじめ多様な選抜方法を用意し、学習意欲・熱意、人間相手の仕事への適性を持つ方にぜひ入学の機会を提供したいと考え、以下のように本学の入学者受け入れ方針を定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の教育理念、教育目標・内容・方法等を理解した上で入学を希望する者 2. 将来、社会福祉関係、保育関係、学校教育関係、心理学を生かした職業を目指し、チャレンジ精神や意欲がある者 3. 自分や他の人を大切に、「やさしさ」「思いやり」「人間性」にあふれる熱意のある者

4. 東京福祉大学・東京福祉大学短期大学部の実践的・効果的な教育を継続して学び、能力を伸ばしていこうという意欲のある者

学部等名 心理学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)

現代社会が抱えるさまざまな問題に心理学の観点からアプローチでき、心理の職域のみならず近接領域である福祉・教育分野並びに一般企業でも即戦力として実践的な能力を發揮できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)

心理学科のカリキュラムの履修を通して、

- ・心理学に関する専門的な知識・技能を体系的に習得し、主体的に、専門的学問に取り組む力を身に付ける。
- ・現代社会が抱えるさまざまな問題を発見し、その解決に向けて心理学の観点から科学的にアプローチできる能力を身に付ける。
- ・ヒューマンサービス等、心理の関連分野において、心理学の知識を応用して実践的に活躍できる力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)

心理学科では、以下の点に留意する。

「心の仕組み」を学ぶ科目、「心の問題」を紐解く実践的な科目、「心のケア」について学ぶ科目等を通して、科学としての心理学、応用としての心理学を深く学ぶ。

専門展開科目において、心理学の各分野の理解を深めると共に公認心理師受験資格に必要な学部要件を満たすカリキュラムも学修でき、さらに社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学に密接した分野でのヒューマンサービスを学び、各現場で応用するための力を身につける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)

(大学学部共通)

東京福祉大学は、その建学の精神・教育理念に基づき、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力・行動力が備わった、社会福祉、教育、心理分野の専門職者の養成を目的としている。

そのために、実生活や実社会で生きるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力、学びに向かう力や人間性を身に付けることや本学の各学部・学科で養成する各分野の専門家に必要な専門的な知識・技能を体系的に理解するとともに、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会貢献できる能力を身に付けさせることを重視している。

本学の入学者選抜では、受験時の実力だけでなく入学後の能力の伸長の可能性をも見出すことを目的とし、総合型選抜をはじめ多様な選抜方法を用意し、学習意欲・熱意、人間相手の仕事への適性を持つ方にぜひ入学の機会を提供したいと考え、以下のように本学の入学者受け入れ方針を定めている。

1. 本学の教育理念、教育目標・内容・方法等を理解した上で入学を希望する者
2. 将来、社会福祉関係、保育関係、学校教育関係、心理学を生かした職業を目指し、チャレンジ精神や意欲がある者
3. 自分や他の人を大切にし、「やさしさ」「思いやり」「人間性」にあふれる熱意のある者
4. 東京福祉大学・東京福祉大学短期大学部の実践的・効果的な教育を継続して学び、能

力を伸ばしていこうという意欲のある者

学部等名 保育児童学部

教育研究上の目的
(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)
子どもを取り巻く現代社会の問題を正しく理解し、的確かつ柔軟な実践力を備えた、多様な保育ニーズに対応できる、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等、子育て支援・幼児教育の専門家を養成する。

卒業の認定に関する方針
(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)
保育児童学科のカリキュラムの履修を通して、
・保育士、幼稚園教諭、保育教諭等になるための専門的な知識・技能を体系的に身に付ける。
・乳幼児保育の専門家として、的確な対象理解力と子どものニーズへの対応力を身に付ける。
・子どもを取り巻く現代社会の問題を理解し、的確かつ柔軟な思考力、実践力を備えた多様な保育ニーズに対応できる資質・能力を身に付ける。
・園経営、クラス運営などのマネジメント能力を身に付けるとともに、多様な人々とともに、目標に向けて協力する力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)
保育児童学科では、以下の点に留意する。
保育児童学科は、保育専門職者の育成が主目的であって、乳幼児の保育実践力に加えて、子どもを取り囲む環境の改善、地域における子育て支援活動、保護者の育児相談などにも対応できる人材の育成を目指している。専門基礎として1年次に保育児童学概論、2年次に保育児童基礎演習、4年次に卒業研究に相当する保育児童専門演習などを配置し、理論と実技を統合しながら学習できるようカリキュラム編成している。保育士資格以外に社会福祉士受験資格、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭の免許状等を取
得可能な科目を配置し、子ども、家族、地域という広い範囲の社会システムに焦点をあてながら、保育及び教育の専門家養成を想定している。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：<https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/philosophy.html>)

(概要)
(大学学部共通)
東京福祉大学は、その建学の精神・教育理念に基づき、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力・行動力が備わった、社会福祉、教育、心理分野の専門職者の養成を目的としている。
そのために、実生活や実社会で生きるために必要な知識・技能、思考力判断力・表現力、学びに向かう力や人間性を身に付けることや本学の各学部・学科で養成する各分野の専門家に必要な専門的な知識・技能を体系的に理解するとともに、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などの社会貢献できる能力を身に付けさせることを重視している。
本学の入学者選抜では、受験時の実力だけでなく入学後の能力の伸長の可能性をも見出すことを目的とし、総合型選抜をはじめ多様な選抜方法を用意し、学習意欲・熱意、人間相手の仕事への適性を持つ方にぜひ入学の機会を提供したいと考え、以下のように本学の入学者受け入れ方針を定めている。
1. 本学の教育理念、教育目標・内容・方法等を理解した上で入学を希望する者
2. 将来、社会福祉関係、保育関係、学校教育関係、心理学を生かした職業を目指し、チャレンジ精神や意欲がある者

3. 自分や他の人を大切に、「やさしさ」「思いやり」「人間性」にあふれる熱意のある者
 4. 東京福祉大学・東京福祉大学短期大学部の実践的・効果的な教育を継続して学び、能力を伸ばしていこうという意欲のある者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/images/organization.pdf
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					人
社会福祉学部	—	18人	12人	21人	3人	0人	54人
教育学部	—	15人	11人	13人	3人	0人	42人
心理学部	—	9人	9人	10人	1人	0人	29人
保育児童学部	—	9人	10人	12人	1人	0人	32人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		124人				124人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/professor.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	—	—					—
社会福祉学部（通信）	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
教育学部（通信）	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
心理学部（通信）	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
保育児童学部（通信）	—	0人	0人	2人	0人	0人	2人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
3人		376人				379人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/professor.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
社会福祉学部 社会福祉学科	410人	239人	58.3%	1,670人	1,751人	104.9%	16人	95人
社会福祉学部 保育児童学科 (募停)	—	—	—	—	2人	—	—	—
教育学部	280人	139人	49.6%	1,180人	911人	77.2%	30人	19人
心理学部	230人	237人	103.04%	950人	957人	100.7%	15人	25人
保育児童学部	150人	67人	44.7%	660人	391人	59.2%	35人	6人
合計	1,070人	682人	63.7%	4,460人	4,012人	90.0%	96人	145人
(備考)								

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
社会福祉学部 社会福祉学科 (通信)	520人	112人	21.5%	2,705人	578人	21.4%	315人	22人
社会福祉学部 保育児童学科 (通信) (募停)	—	—	—	—	24人	—	—	—
教育学部 (通信)	300人	11人	3.7%	1,880人	146人	7.8%	340人	16人
心理学部 (通信)	300人	91人	30.3%	1,925人	762人	39.6%	365人	87人
保育児童学部 (通信)	100人	22人	22.0%	880人	144人	16.4%	200人	15人
合計	1,220人	236人	19.3%	7,390人	1,654人	22.4%	1,220人	140人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
社会福祉学部 社会福祉学科	363人 (100%)	29人 (8.0%)	236人 (65.0%)	98人 (27.0%)
社会福祉学部 保育児童学科	—	—	—	—
教育学部	253人 (100%)	17人 (6.7%)	193人 (76.3%)	43人 (17.0%)
心理学部	214人 (100%)	21人 (9.8%)	163人 (76.2%)	30人 (14.0%)
保育児童学部	123人 (100%)	0人 (0.0%)	114人 (92.7%)	9人 (7.3%)
合計	953人 (100%)	67人 (7.0%)	706人 (74.1%)	180人 (18.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>本学では、授業計画書(シラバス)作成過程において、親シラバス制度を導入している。親シラバスとは、シラバスの項目のうち、「授業形態」、「講義概要」、「学習目標」、「成績評価の規準と評定の方法」の4項目を同一科目で共通化した母体のシラバスを意味するシラバスである。この4項目は、異なるキャンパス・教員間であっても共通としている。</p> <p>シラバスの作成過程は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学期末に、授業担当教員が「担当科目実施報告書」を作成して、科目責任者に提出。科目責任者は「同一科目担当者協議会」を開催して、教育内容の質の均一化、成果の標準化を目的として行い、親シラバスの各項目の確認を行う。春期授業期間後に実施される同一科目担当者協議会では、親シラバス変更の手続きが行われ、次年度シラバスに反映される。 2. 親シラバス変更後、次年度科目担当教員に次年度シラバスの作成依頼が行われ、教員はシラバス作成を行う。 3. 教員から提出されたシラバスは、カリキュラム編成専門部会による点検を行い完成となる。 <p>なお、通信教育課程は、上記の作業後、科目責任者を中心に通信教育課程のシラバスを確認し、変更された内容を反映させた上で通信教育教務専門部会による点検を行い、完成となる。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
(通学課程)				
ディプロマ・ポリシーに基づき所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、教授会及び教育研究評議会の議を経て学長が卒業を認定している。				
(通信教育課程)				
ディプロマ・ポリシー及び所定の単位を修得し、GPA2.0以上であることを踏まえ、通信教育委員会の議を経て学長が卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
社会福祉学部	社会福祉学科	128 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	単位
心理学部	心理学科	124 単位	有・無	単位
保育児童学部	保育児童学科	128 単位	有・無	単位
社会福祉学部 (通信)	社会福祉学科	128 単位	有・無	単位
教育学部 (通信)	教育学科	124 単位	有・無	単位
心理学部 (通信)	心理学科	124 単位	有・無	単位
保育児童学部 (通信)	保育児童学科	128 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.tokyo-fukushi.ac.jp/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
社会福祉学部	社会福祉学科	805,000 円	200,000 円	345,000 円	
教育学部	教育学科	805,000 円	200,000 円	345,000 円	
心理学部	心理学科	805,000 円	200,000 円	345,000 円	
保育児童学部	保育児童学科	805,000 円	200,000 円	345,000 円	
社会福祉学部 (通信)	社会福祉学科	149,000 円	30,000 円	17,260 円	
教育学部 (通信)	教育学科	149,000 円	30,000 円	17,260 円	
心理学部 (通信)	心理学科	149,000 円	30,000 円	17,260 円	
保育児童学部 (通信)	保育児童学科	149,000 円	30,000 円	17,260 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>本学では、学生の学業や学生生活に関する相談を受ける学業相談員としてアカデミックアドバイザー制度を導入している。授業科目を担当する教員から教務課へ授業を2回以上休んだ学生の報告が行われ、教務課よりアカデミックアドバイザーにその状況が伝えられている。アカデミックアドバイザーは当該学生と面談を行い状況の確認と適切な指導を行い、その指導結果は教務課を通じて学部長(学科長)に報告されている。また、毎月の授業出席状況がアカデミックアドバイザーに報告され、授業の欠席回数が多い学生への指導を行っている。</p> <p>授業科目を担当する教員は、授業時間以外に週3時間以上のオフィスアワーを設け、学生からの授業科目に関する学修相談に応じている。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>本学では、学生が通信教育の履修方法や、学修を進めるなかで不安や質問が生じた場合に、様々な方法でサポートを行っており、スカイプによるインターネットを介した対面相談、電話、FAXにより学修内容に関する質問や相談に応じる相談員(学修アドバイザー)や、事務取扱い等の窓口となる通信教育課で問合せに応じている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>本学では、就職支援室が学生の就職活動をサポートしている。本学に寄せられる求人票を管理し、学生の希望と照らし合わせながら求人情報を提供。応募書類の記入から就職試験・面接等に至るまで、個別面談を中心に親身で丁寧な支援を行っている。また、企業を招いてのセミナーの実施等で就職を支援している。</p> <p>教員を志す学生に対しては、教職課程支援室が、最新の試験情報を提供したり、個人面談、受験願書の書き方指導、面接対策講座などを実施している。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>本学では、就職支援室が学生の就職活動をサポートしている。本学に寄せられる求人票を管理し、学生の希望と照らし合わせながら求人情報を提供。教員を志す学生に対しては、教職課程支援室が、最新の試験情報を提供したり、個人面談、受験願書の書き方指導、面接対策講座などを実施している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生相談室を設置し、学生生活において生じる様々な事柄、特に精神的な問題について相談することができる。</p> <p>相談は平日週4日受け付けを行い、臨床心理士が相談の対応を行ない、学生と相談内容について一緒に考え、問題の解決に協力する体制としている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.tokyo-fukushi.ac.jp/introduction/publicinformation/index.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310102840
学校名	東京福祉大学
設置者名	学校法人茶屋四郎次郎記念学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		390人	376人	406人
内 訳	第Ⅰ区分	215人	219人	
	第Ⅱ区分	108人	107人	
	第Ⅲ区分	67人	50人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				412人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	18人		
計	24人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	前半期	後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	21人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	19人		
計	38人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。